

“Brexit: Constitutional causes and consequences”

講師: Fabian Duessel

**Researcher
Faculty of Law,
Tuebingen University
Germany**



司会: 江島晶子(明治大学法科大学院教授)

本年6月23日に行われたイギリス国民投票はEU離脱(Brexit)を選択した。現在、EUからどのように離脱するのか、離脱後のイギリスとヨーロッパの関係はどのようなものになるのか、具体的なプランは示されていない。イギリスに及ぼす影響、EUに及ぼす影響も、非EU構成国(たとえば日本)に及ぼす影響も不透明である。他方、国民投票の結果は、イギリス社会内の分断(たとえば、スコットランドという地域や若年層は残留を強く支持する)を明らかにした。そこで、いかなる憲法構造の下でBrexitが問題となったのか、国民投票の結果はイギリス政府をどのように拘束するのか、そして、Brexit実現後には、どのような仕組みが想定できるのか、比較憲法の視点からBrexit問題を徹底分析する。

日時: 2016年10月13日(木)

18:10~19:40

会場: 明治大学駿河台キャンパス

グローバルフロント 4021教室(2階)

言語: 英語(通訳なし)

※申込不要・入場無料